

京の環境共生推進計画評価検討部会における検討結果について(総括)

長期的目標について、基本施策の下に設定された環境指標の最新の実績（注釈がない場合は平成23年度の実績）を集計し、計画の進ちょく状況について点検した。

長期的目標1 国際的連携と地域的取組により脱温暖化社会を目指すまち・京都

【取組の進んだ項目】

- (1) 温室効果ガス総排出量（※平成22年度）は661万トンであり、平成21年度に比べて増加したものの、基準年度（平成2年度）の779万トンから15.1%減少し、改正前の京都市地球温暖化対策条例に掲げる10%削減の目標を達成（p3 図1.1, ページは資料2-2に掲載のページを表す。以下同じ。）
- (2) 産業部門の二酸化炭素排出量は94.7万トンであり、基準年度から99.9万トン、51.3%減少（p4 図1.3）
- (3) 運輸部門の二酸化炭素排出量は158.4万トンであり、基準年度から38.9万トン、19.7%減少（p5 図1.5）

【取組が進まなかった項目】

- (1) 民生・家庭部門の二酸化炭素排出量は161.5万トンであり、基準年度から16.8万トン、11.6%増加（p6 図1.8）
- (2) 民生・業務部門の二酸化炭素排出量は199.7万トンであり、基準年度から29.9万トン、17.6%増加（p7 図1.11）

【課題】

- 民生・家庭部門及び業務部門の二酸化炭素排出量は基準年度から増加しているため、「京都市地球温暖化対策計画」に基づき、エコ学区等において地域ぐるみでの省エネ活動の促進など、環境にやさしいライフスタイルの転換に向けた、より一層の取組が必要である。

長期的目標2 公害のない健康で安全な環境が保たれるまち・京都

【取組の進んだ項目】

透水性舗装延長は「毎年度10km延長」の目標を5年連続で達成（p13 図2.5）

【取組が進まなかった又は横ばいの項目】

- (1) 大気汚染に係る市保全基準達成率のうち、一般局の光化学オキシダントは全局非達成の状況が継続（p10 表2.1）。
- (2) 自排局の二酸化窒素（当分の間の基準）は、5測定局のうち3測定局が基準超過（p11 図2.1）

(3) 近年の公害苦情は 600 件前後で推移し，騒音や悪臭の件数が多い（p14 図 2.6）

【課題】

- 二酸化窒素の年平均濃度は近年低下傾向にあるものの，自動車排出ガスの影響が大きいことから，「京都市自動車環境対策計画」に基づき，従来からの公害防止の観点に加え，歩くことや公共交通の利用を優先するとともに，環境にやさしい車の利用を進める対策が必要である。
- 公害苦情の原因をみると，依然として，工場・事業場からの悪臭，工事・建設作業からの騒音のように事業活動に伴う公害苦情が多い。よって，新たに届出のあった事業者等への立入指導等，事業者対策の強化を引き続き進める必要がある。

長期的目標3 自然と共生し，うるおいと安らぎのあるまち・京都

【取組の進んだ項目】

森林保育・造林面積は前年度から 182ha 減少したが，「森の力活性・利用対策」事業により除間伐は 2 年連続で 600ha 以上の実績（p15 図 3.1）

【取組が横ばいの項目】

自然体験学習の場利用者数は，平成 20 年度以降やや減少（p16 図 3.2）

【課題】

- 「京都市森林整備計画」及び「京都市農林行政基本方針」に基づく，森林の多様な機能の向上につながる間伐等の森林の適切な整備と木材の活用を，引き続き推進する必要がある。
- 「第 1 次 京のみどり推進プラン」に基づき，「市内の緑視率 10%以上の確保を目指す」などの目標達成に向けた取組を推進する必要がある。
- 市民が直接自然にふれあい，親しむことができる場や機会を創出する必要がある。

長期的目標4 ごみの減量化を進め，資源を循環的に利用するまち・京都

【取組の進んだ項目】

- (1) 一般廃棄物市受入量（p17 図 4.1），一般廃棄物市最終処分量（p18 図 4.6）は共に減少
- (2) 使用済てんぷら油の回収拠点数・回収量は年々増加（p19 図 4.7）

【課題】

- 一般廃棄物市受入量は減少しているものの、平成 23 年度は前年度比約 8 千トン減にとどまっている。平成 32 年度の一般廃棄物市受入量をピーク時の半分以下の 39 万トンまで削減するためには、これまで以上にゴミ減量の取組を推進する必要がある。
 - ・家庭ゴミについては、14 年ぶりに増加（平成 22 年度に比べ 0.3%，1 千トン増加）
 - ・家庭ゴミ（燃やすゴミ），事業ゴミ共に約 4 割を占める厨芥類（生ゴミ）の減量，3 割を占める紙ゴミの分別・リサイクルの取組を推進することが必要

長期的目標5 すべての主体の知恵と工夫と行動で環境を支えるまち・京都

【取組の進んだ項目】

- (1) 京エコロジーセンター入館者数は前年度から約 1.9 万人増加し、開館来最高の入館者数を達成（p20 図 5.1）
- (2) KES・環境マネジメントシステム・スタンダードの認証取得（保有）件数は年々増加（p21 図 5.3）
- (3) エコイベント登録数は前年度に比べ 5.6 倍に増加（p21）

【取組が横ばいの項目】

平成 19 年度をピークに環境保全活動プログラム参加者数は減少（p20 図 5.2）

【課題】

- 児童・生徒を対象とした環境教育・学習は重要であることから、環境副読本や子ども版環境家計簿「こどもエコライフチャレンジ」など、教育委員会と連携した取組を引き続き推進する必要がある。
- 京エコロジーセンターなど拠点施設における環境教育・学習だけでなく、市内の様々な場所で、あらゆる年齢層の市民を対象とした環境教育・学習の取組が必要である。

